

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

石 田 宏 代

今 井 智 子

宇 野 彰 準

勝 木 美 子

熊 倉 勇 子

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

今号には、2008年6月に開催された第9回日本言語聴覚学会で講演をされた、韓国ナザレ大学のMi Sun Yoon教授(SLP)、社団永生会永生病院の赤木家康先生、聖隷浜松病院の磯崎泰介先生の寄稿を掲載しました。赤木先生の講演は実体験に基づくものであり、多くの臨床的示唆を得ることができる講演でした。また磯崎先生にはNSTで言語聴覚士が期待される役割についてわかりやすく解説していただきました。韓国の言語聴覚療法の現状について幅広く紹介されたMi Sun Yoon教授の講演によると、現在、韓国にはSLPが約3,000人、オーディオロジストが約500人活躍しているとのことで、人口比からみてわが国よりも少数であるといえます。しかし、韓国では両専門職の教育は大学および大学院を中心として行われており、研究への関心は非常に高く、幅広いテーマで活発な研究活動が行われています。国家資格化や健康保険制度への参入などの問題があることはうかがわれますが、専門職の着実な努力で韓国の言語聴覚分野の未来は拓かれるものと思われます。

一方、わが国には14,000名の言語聴覚士がいますが、臨床環境は非常に厳しくなっており、若手の言語聴覚士が臨床と研究を両立させることが容易でない状況があります。臨床の質を高めるには、言語治療のエビデンスを集積する研究活動が不可欠であり、このような状況は真に憂慮されています。今号には、失語症、嚥下障害、食道発声、構音障害などに関する貴重な研究が掲載されており、このような投稿が今後も続くことが望まれます。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第5巻 第3号)2008年11月25日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル801

(☎03-6412-9853 FAX 03-6412-9854) <http://www.jaslht.gr.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Kasumi-Build. #801, 2-5-16 Shinjuku Shinjuku-ku, Tokyo, 160-0022, Japan

©2008, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)